

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日 ～ 令和6年12月27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日 ～ 令和6年12月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	12
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月16日 ～ 令和7年1月10日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	7 (回答数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校生活の中で保護者の不安や希望を把握し、常に連携を行っている	保護者からの情報を整理し、当事業所での様子を伝えながら訪問支援の必要性を伝えている	当事業者での保護者了承のもと、個別支援計画を訪問先と共有することで充実された支援ができる
2	訪問支援員の専門的視点で、訪問先と話し合いを行いアドバイス等を行っている	児童の特性等、専門的に訪問先に伝えるようにしている	訪問支援を継続し、学校生活における人・環境に働きかけ、安心・安定につなげていく
3	訪問後の結果を全職員と共有することで支援の一貫性を行っている	送迎時の学校からの連絡や児童の様子等の情報を共有し支援につなげている	5領域を意識した具体的場面での様子観察を行いその記録を残す

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	授業参観の後の学校との情報共有や課題等の話し合いの時間が、当日十分取れず後回しになってしまう事がある	参観後、担任が次の授業等で話し合いの時間がとれにくい	後日、改めて両者での日程調整の上訪問し話し合いの時間を持つ事
2	各学校の訪問支援について周知度が異なり、受け入れの為の説明が必要	訪問の目的や方法等、ガイドラインを用いて説明していく必要がある	保育所等訪問支援事業の周知徹底を図るために、教育委員会等にも働きかけていく必要がある
3	全保護者に訪問支援の概要を配布しているが、利用している保護者に偏りがある	「保育所等訪問支援」という名称が誤解されている事例もある	今後、個別に説明し必要に応じて事業の目的・方法等を詳しく説明し、理解につなげていく